

後志川ハ源ヲ膽振ノ北境ナル山中ニ發シ、西流シテ後方羊蹄山ノ南麓ヲ繞リ、雷電山ノ腰ニ沿ヒテ、磯谷ニ至リ壽都灣ニ注ク、長サ僅ニ十八里ニ過キサレトモ、其幅殆ト二町ニ近シ、以上ノ外、後志ノ利別川(三十里)、膽振ノ遊樂部川(三十四里)、長流別川(十六里)、鷓川(二十里)、日高ノ厚別川(十五里)、新冠川(二十六里)、染退川(十五里)、根室ノ西別川(三十里)、標津川(十六里)、北見ノ富別川(十五里)等ハ各、其國ニ著名ナル川河ナリ、

(湖沼) 湖沼ハ其數頗ル多ク、周回一里以上ノモノ凡テ三十有二アリ、就中最大ナルモノハ北見ノ猿間沼(周回凡ソ十八里)ニシテ、根室ノ楓蓮湖(十五里)、膽振ノ洞爺湖(十里)、支笏湖(十里)、十勝ノ喜内沼(八里)、北見ノ網走沼(七里)、膽振ノ長部沼(五里餘)等亦最モ名アルモノナリ、

(鑛泉) 本道内鑛泉ノ總數三十有餘アリ、然レトモ多ク山間僻遠ノ地ニアルヲ以テ、其名顯ハレズ、其著名ナルモノハ渡島最多ニシテ、惠山ニ惠山湯(硫黃泉)アリ、其近傍ニ河汲湯(炭酸泉)アリ、後志ニハ雷電山腹ニ雷電湯(硫黃泉)アリ、膽振ニハ登別山中ニ登別湯(硫黃泉)アリ、

(平原) 蝦夷嶋ノ地ハ前ニ述ヘタルカ如ク、其骨髄タル山脈ニ依リテ四箇ノ三角形平原ニ截斷サレ、石狩、十勝、天鹽等ノ諸川各、之ヲ灌溉ス、其太平洋及オコツク海ニ面スルモノハ、地味豊饒ト稱スルヲ得サレトモ、日本海ニ面スルモノハ極テ肥沃ニシテ、庶木雜草鬱茂叢生シ、中ニモ石狩河領ハ石狩平原ト稱シ、本邦稀有ノ曠原沃土ナリ、現今各地盛ニ開拓ニ從事スレトモ、未タ人跡ノ到ラサル處大半ナリ、他日開墾其功ヲ積マハ、本邦ノ一大富源タルコト更ニ疑ヒナ

カルヘシ、

(氣候) 本道ハ土壤曠闊ニシテ、南北其緯度ヲ異ニスルカ上ニ、中央ニハ東西ニ亘レル千島火山脈アルカ故ニ其南部ト北部トハ自ラ氣候ニ多少ノ差違ナキヲ得ス、南方太平洋ニ瀕セル部分ハ、北山岳ヲ負ヒ、東南日光ヲ受ケ、且ツ溫暖ナル赤道洋流ノ感化ヲ蒙リ、氣候頗ル溫和ニシテ、或ハ却テ本洲奥羽ノ地ヨリモ暖ナル處アリ、其降雪ノ如キモ十一月ノ半ニ始マリ、三月ノ末ニ終リ、積雪ノ量一尺乃至三尺ニ過キス、然レトモ漸ク北西及北東ニ繞リ、日本海オコツク海ニ向ヘル地方ニ至レハ、北方ノ寒風ヲ受ケ、加フルニ寒冷ナル潮流侵シ來ルヲ以テ、冬期ハ寒威凜烈ニシテ、朔風膚ヲ劈キ、氷雪地ヲ封シテ、野草悉ク凋枯ス、是ヲ以テ十月已ニ初雪ヲ見、四月ニ至リテ尚ホ未タ融ケス、冬期此ノ如ク長キカ故ニ、春期ハ著シク短ク、草木

ノ發生殊ニ速カニシテ、殆ト梅櫻桃李同時ニ開花スルノ景況アリ、左ニ二三地ノ寒溫雨量明治二十二年ヲ表示ス、

	最高溫	最低溫	平均溫	總降雨量
函館	二九、一 <small>度分</small>	〇一五、九 <small>度分</small>	七、四 <small>度分</small>	一、二四八、二 <small>度分</small>
壽都	三〇、一	〇一一、七	七、三	一、三五〇、三
札幌	三一、九	〇一一、四	六、二	一、二〇五、六
上川	三二、八	〇三四、六	四、一	一、一四六、一
襟裳	二三、九	〇一二、一	六、三	一、〇三三、〇
宗谷	二八、八	〇一七、三	五、〇	一、七八九、三
根室	二九、九	〇一八、八	四、九	一、〇四七、一

(物産) 本道ハ極テ山海ノ天產物ニ富ム、特ニ海產ノ如キハ本道第一ノ利源ニシテ、魚類ニハ鮭、鱒、鯡、鰯、烏賊、河豚等各地近海ニ群集シ、

其絳鱒、搾糟數子ハ多ク内國各地ニ向ヒテ輸出サル、海獸ニハ千島ノ臘肭、臘虎等最モ名高く、海草ハ昆布ヲ第一トス、中ニモ天鹽近海ノ昆布、日高ノ三石昆布、根室ノ根室昆布最モ有名ニシテ、本邦支那貿易ノ大部分ヲ占ム、而シテ函館天然氷ハ其質純潔、全國第一ト稱ス、山林ハ椴檜、樺、落葉松等數百年來ノ喬木鬱茂シテ、造船建築ノ良材用フルニ餘アリ、農業ハ從來甚タ開ケサリシカ、近時屯田兵ノ開墾耕耘ヲナスニ及ヒテ、漸ク進歩ノ景況アリ、

鑛物ハ全道殆ト之ヲ産セサルノ地ナク、中ニモ石炭及硫黃ハ其産出ノ量莫大ニシテ、其質極テ優良ナリ、特ニ石狩國幌内ノ石炭坑ハ其採掘額(明治廿一年)二千五百三十九萬九千二百三十五貫ノ多キニ達シ、本道ノ金庫ト稱セラル、ニ至レリ、硫黃モ其産出ノ多キコト、我邦他ノ諸州ニ於テ類例ヲ見サル所ニシテ、釧路一國ノミニテ

モ、其出來額明治廿一年)二百七十二萬三千四百三十四貫ニ及ヘリ、製造品モ亦從來實ニ微々タルモノナリシカ、近來殖産興業ニ熱心ナルモノ相尋キテ本道ニ移住シ、麥酒、砂糖及麻布ノ如キハ、已ニ宏大ナル製造所ヲ興シテ、盛ニ之ヲ製出ス、此他諸種ノ製造モ漸ク盛大ニ赴クノ兆候ヲ示セリ、

(都市) 本道都市ノ最モ盛ナルハ函館ニシテ、札幌、根室之ニ次ク、函館ハ渡島國ノ南部ニアリテ、渡島灣ノ北岸ニ臨ム、人口五萬二千六百九十三人、開港場ノ一ニシテ北海道廳出張所ノアル處タリ、港口ハ函館山之ヲ掩ヒ、四時風濤ノ害ヲ受ケス、内外汽船ノ出入多ク、全道物産ノ蒐集スル處ニシテ、貿易甚タ繁昌ナリ、此地ト青森トノ航路ハ僅ニ五十九浬ニシテ、其橫濱ニ達スルニハ海路五百十八浬アリ、

札幌ハ石狩國ノ南西部ニ位シ、石狩河口ヲ南方ニ距ルコト遠カラ  
ス、人口一萬四千三百八十九、北海道廳所在ノ都會ニシテ、鐵道ノ線



札幌ノ東ノ方幌内炭山  
路東西ニ通徹シ、  
市ニ達シ、西ノ方手  
街及宮ニ至ルヘシ、此  
北海府ニハ四方ノ民  
道庶常ニ輻輳スル  
土人カ故ニ、市街極テ  
風俗隆盛ニシテ、現今  
ノ農學校、紡績所、工  
作所、博物館及公

園等ノ設ケアリ、箱館ヲ距ルコト五十八里ニ過キス、  
根室ハ根室國ノ南東端ニ位シ、根室灣ノ南邊ニ臨ム、港口ハ北ニ向  
ヒ、辨天嶋其海上ニ表立シテ、風光頗ル佳ナリ、此地ハ舊北海道支廳  
ノアリシ處ニシテ、頗ル樞要ノ地タリ、然レトモ箱館ヲ距ルコト百  
六十六里、札幌本廳ニ達スル百三十六里餘ノ遠キヲ以テ、市坊僅ニ  
數衢、人口亦數千ニ過キス、  
以上ノ外、渡島ノ福山(人口一、八九七)、江差(一、七、一八)、後志ノ小樽  
(二、一、九八四)、天鹽ノ留萌、北見ノ宗谷、膽振ノ室蘭、日高ノ浦河、釧路ノ  
厚岸等ハ各、其國ノ名邑ニシテ、其他ハ記スルニ足ルモノナシ、

中等地理卷二終

版權所有

明治廿四年五月五日印刷

同年五月十四日出版

(中等地理二)

定價金六拾錢

編纂者 東京本郷區駒込東片町百五十二番地 中村 五 六

版權登錄

發行兼印刷人 東京日本橋區本町四丁目拾六番地 小林 義 則

發兌 東京日本橋區本町四丁目十六番地 文 學 社

印刷 東京市京橋區瀧山町七番地 瀧 關 社

關西賣捌代理店

大坂備後町四丁目

吉岡平助

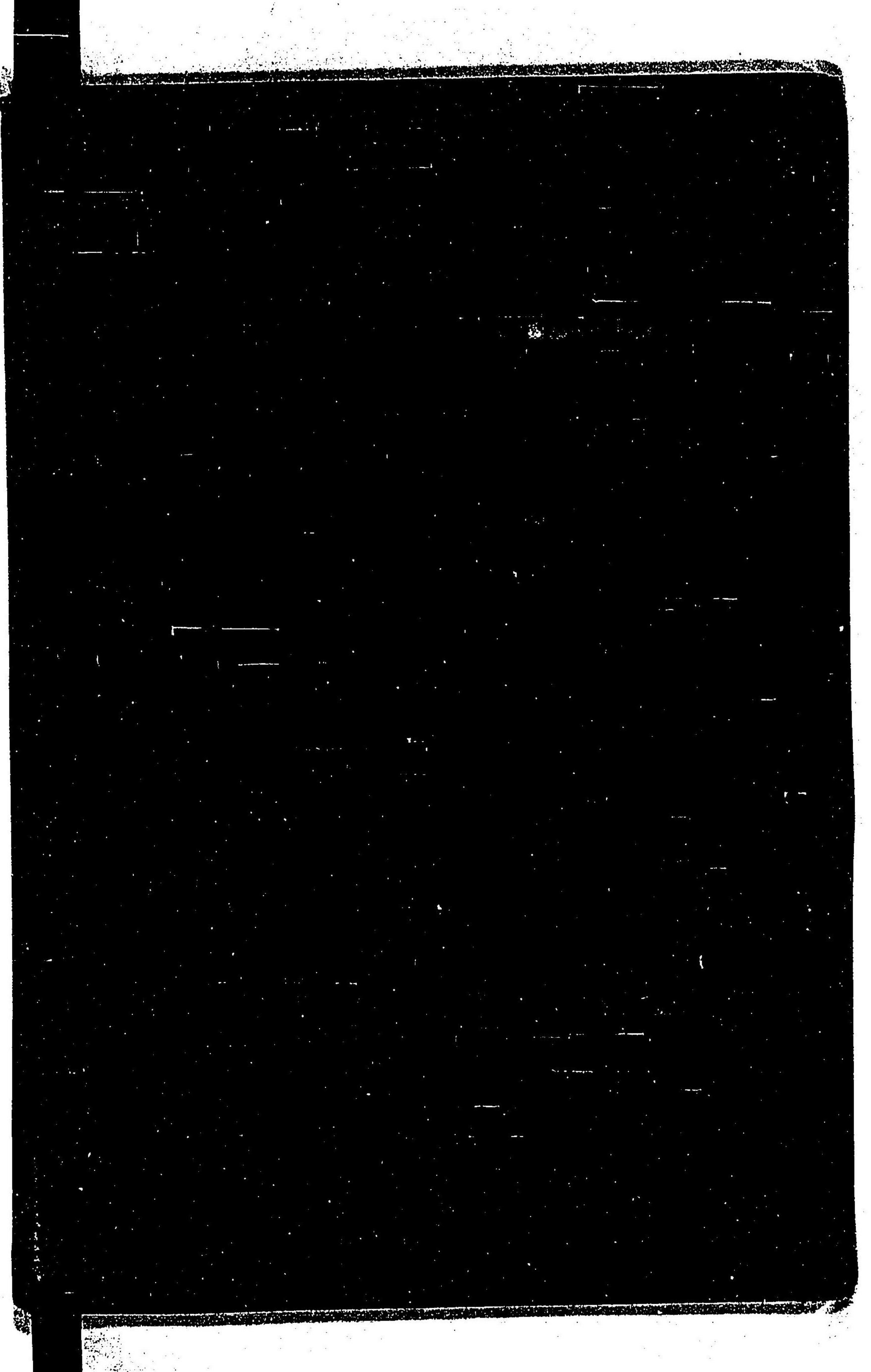
大賣所 京橋南傳馬町二  
日本橋通大坂町二  
日本橋新大坂町二  
日田區鍛冶郎町四  
神田區北久太郎町四  
大坂區北久太郎町四  
越後長岡吳服町  
全長岡吳服町  
越後長岡吳服町  
名古屋本町三  
名古屋本町三  
神戶相生橋町三  
神戶相生橋町三  
熊本新丁目  
鹿兒島仲丁目  
長崎引地町  
長崎引地町  
松本南深志町  
仙臺國分町  
西京寺町  
函館末廣町三  
横濱上町三  
山形八日町三

目黒野十郎支店  
水野慶次郎支店  
小喜右衛門支店  
有正兵衛支店  
柳原喜兵衛支店  
目黒原喜兵衛支店  
松田周平支店  
西村六平支店  
川瀬代助支店  
片野榮四郎支店  
熊谷久助支店  
吉岡平助支店  
長崎幸兵衛支店  
吉岡平助支店  
鶴野幸兵衛支店  
西澤喜太郎支店  
水野喜太郎支店  
高藤琴太郎支店  
田中治兵衛支店  
魁文兵衛支店  
五島右衛門支店

秋田本町  
金澤町  
富山町  
廣島町  
山崎町  
高知町  
博多町  
佐賀町  
福島町  
千代田町  
水戸町  
伊勢町  
全川町  
靜岡町  
全川町  
伊勢町  
水戸町  
千代田町  
福島町  
佐賀町  
博多町  
高知町  
山崎町  
廣島町  
富山町  
金澤町  
秋田本町

本間金之助  
大橋善甚  
松村臣吉  
宮川駒吉  
澤本分社  
博多内庄  
河内左一  
長島多右  
能勢銀右衛門  
川又銀右衛門  
都文次郎  
豐文次郎  
廣住文次郎  
吉見義市  
內藤源右衛門  
三浦善源  
田中九兵衛  
野崎庄兵衛  
佐藤庄兵衛  
便藤庄兵衛  
岡崎左喜  
川島清次  
前井榮次  
平井萬文  
阪井萬文

27
85





27  
85

85

